

津波対策 – 敷地に遡上する津波対策における外部機関との連携及び水密扉の操作 –



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.46

防潮堤を越えて敷地に流入（遡上）する津波への対策は、敷地内の可搬型設備だけではなく、外部の機関との連携も検討した方がよいのではないか。また、原子炉建屋の水密扉について、津波襲来時に確実に閉まっていることを、どのように担保するのか。



第21回ワーキング
(2022.7.29) で議論

ワーキングチーム検証結果

発電所から東海村中心部までは津波の影響がない標高20m以上のエリアが続いており、外部機関との連携は可能であること、水密扉は必要時以外は常時閉止し、中央制御室において常時監視していること、一番大きな水密扉でも3分以内に閉止できることなどを確認。

ワーキングチーム検証結果（抜粋）

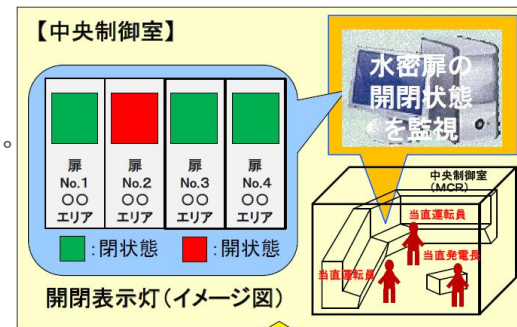
敷地に遡上する津波に対する外部支援

- 東海第二発電所では、重大事故等発生時に外部機関からの支援が得られるよう、プラントメーカーや他の原子力事業所などと平時から協定・覚書を結んでいる。
- また、発電所外には、原子力事業所災害対策支援拠点として複数の地点を選定している。これらの拠点は、標高の高い内陸部にも選定している。
- 発電所が立地する東海村の中心部から発電所の敷地までは、津波の影響がない標高20m以上のエリアがあるため、津波の影響を避けたルートを選択することで、外部から発電所までアクセスすることが可能



水密扉の状況確認・閉操作

- 原子炉建屋等の重要な区画との境界に設けている水密扉については、必要とき以外は常時閉止する運用としている。
- 中央制御室では、水密扉の開閉状態を監視することが可能な表示灯を設置
- 水密扉を開放する場合は、中央制御室に連絡又は許可を受けた上で行う。
- 水密扉の開状態が継続した場合には、現場においてブザーが鳴ることで注意喚起する。
- 水密扉開放中に大津波警報が発報された場合には、速やかに水密扉を閉止するとともに、他の水密扉の開閉状態を確認し、開放状態の水密扉があれば速やかに閉止する。
- 最も大型の水密扉である原子炉建屋大物搬入口扉でも3分以内に閉止可能



水密扉の開閉状況の確認（イメージ）